年間授業計画　新様式例

高等学校 令和４年度（１学年用） 教科　芸術　科目 美術Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：美術Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年

使用教科書：（ 日本文教出版　高校生の美術Ⅰ　　）

教科　芸術　　の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。○ 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。

【思考力、判断力、表現力等】○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

科目　美術Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。○ 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 絵・彫	表現 デ	表現 映	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	【知識及び技能に関する目標】 視覚に関する錯覚の効果を理解し、不思議なイメージを捉えている。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 錯視やイメージの重なりなどを基に、形や色彩を鑑賞する。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 不思議な世界を表す鑑賞活動に、主体的に取り組む。	○錯視、美術の様々な表現について				○	「知」 視覚に関する錯覚の効果、質感や空間など造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 「鑑」 錯視や不思議な世界の表現の効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 「態表」 錯視やイメージの重なりなどを基に、不思議な世界を表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 「態鑑」 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい錯視や不思議な世界の特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	【知識及び技能に関する目標】 マークの認識されやすい効果的な形や色彩を使用し、意図に基づいて表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標 ロゴマークの内容や目的と見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 ロゴマークで効果的に表す創造活動に、主体的に取り組む。	○オリジナルロゴマークをデザインする	○	○		○	「知」 形や色彩の性質やそれらが感情にもたらす効果、伝達の意図や目的に求められる造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 「技」 表現の意図や目的に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫して創造的に表している。 「発」 表現する内容や目的などから主題を生成し、見やすさや美しさの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練っている。 「鑑」 見やすさや美しさの調和を感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 「態表」 伝達する内容や目的をオリジナルロゴマークで表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 「態鑑」 ロゴマークのよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている	○	○	○	12
	【知識及び技能に関する目標】 全体のイメージや作風などを捉え、線や面などの版による表現の効果を生かし、彫りや製版、刷りを工夫して表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 版画の表現のよさや特性を基に、版による表現の効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 版による表現の特性を生かして表す創造活動に、主体的に取り組む。	○イメージを版画で印刷する	○	○		○	「知」 版による表現の効果や版画の技法や材料、用具の特性を理解し、意図に応じて創意工夫し、主題を追求して表すことを理解している。 「技」 線や面などの版による表現の特性や効果を生かし、製版、刷りを工夫し、主題を追求して創造的に表している。 「発」 版画表現の特性を生かして主題を生成し、形体や構成、版の形式による効果などを考え、創造的な表現の構想を練っている。 「鑑」 版の特性を生かした作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫との関連などを考え、見方や感じ方を深めている。 「態表」 版の特性を生かして構想を練ったり、意図に応じて工夫して表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 「態鑑」 版による表現の特性と作者の意図と工夫との関連を感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	【知識及び技能に関する目標】 風景の中の空間、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】身近な場所や風景のイメージなどを基に、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 風景から感じ取ったよさや美しさなどを捉えて表す創造活動に、主体的に取り組む。	○校内風景画を描く	○				「知」 風景の中の空間、形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 「技」 意図に応じて絵の具などの特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している 「発」 風景の中の色や形などを深く観察し、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、形や色彩、構図などの効果を考え、創造的な構想を練っている。 「鑑」 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、風景画の見方や感じ方を深めている。 「態表」 風景から感じ取ったよさや美しさ、不思議さや面白さなど、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 「態鑑」 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい風景の特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	【知識及び技能に関する目標】 思いや感じ取ったことを基にして、映像メディア機器の機能や効果を生かして表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 画面の構成と時間の流れや物語性、言葉や音などの効果を考え、表現効果や伝達効果を工夫する。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 映像メディア機器などの特性を生かした表現方法などを創意工夫して表す創造活動に、主体的に取り組む。	○アニメーションを作ろう			○	○	「知」 画面の構成や時間の効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 「技」 意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表している。 「発」 感じ取ったことや考えたことなどを基に、アニメーションによる表現の特性を生かして主題を生成し、画面の構成と時間の流れや物語性、言葉や音などの働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 「鑑」 アニメーションの特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 「態表」 アニメーションによる表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 「態鑑」 アニメーションの鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
2学期	【知識及び技能に関する目標】 形や質感、量感、重心やバランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、粘土などの材料の特性を生かして表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に、形や質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 表情や動きを捉えて粘土で表す創造活動に、主体的に取り組む。	○浮き彫りによる木彫表現	○			○	「知」 形や質感、量感、重心やバランス、動勢などの効果、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 「技」 意図に応じて、木材などの材料の特性を生かし創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 「発」 対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に主題を生成し、形や質感、量感、重心やバランス、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 「鑑」 木彫の特性を生かした作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 「態表」 対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に、塑造で表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 「態鑑」 木彫による表現の特性、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図や工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	28
3学期	【知識及び技能に関する目標】 デジタル機器による画像の加工方法による対象のイメージの変化について理解する。認識されやすい効果的な形や明度の違いを利用した色彩を使用し、表現したいイメージや意図に基づいて表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 デジタル機器を利用した画像加工の技術を利用して、意図したイメージを顔の表情やポーズ、色彩の見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 意図したイメージを顔の表情やポーズ、色彩の工夫により伝えたい内容をマークやピクトグラムで効果的に表す創造活動に、主体的に取り組む。	○コントラストを使った自画像色面構成		○		○	「知」 形や色彩の性質やそれらが感情にもたらす効果、伝達の意図や目的に求められる造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 「技」 伝達の意図や目的に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫して創造的に表している。 「発」 伝達する内容や目的などから主題を生成し、見やすさや美しさの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練っている。 「鑑」 見やすさや美しさの調和を感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 「態表」 イメージした意図や目的を自画像の色面構成で表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 「態鑑」 色面構成の自画像のよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。				20
											合計 78